

こん棒体操

—先輩から後輩へと受け継がれる伝統—

1 学年 第6学年〔中期〕

2 主題名 よりよい校風〔4－（6）〕

3 ねらい

こん棒体操を楽しそうにまねしている1年生を見たときの「みどり」の気持ちを考えることを通して、最高学年としての自覚をもち、よりよい校風をつくろうとする心情を育てる。

4 資料名 「こん棒体操」

5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1 こん棒体操について知る。 ○ 何をしているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 見たことないなあ。 こんな体操があるんだな。 	○ こん棒体操のビデオや写真を提示し、雰囲気をつかませる。
展開	2 資料「こん棒体操」を読んで話し合う。 ○ 「みどり」は体育の時間に先生からたびたび指導を受けたときどんな気持ちだったでしょう。 ○ 先生やお母さんの話を聞いて、「みどり」が気が引きしめる思いがしたのはなぜでしょう。 ◎ まねをして遊んでいる1年生を見て、「みどり」はどんなことを考えたでしょう。 3 自分の学校の自慢について考える。 ○ 自分たちの小学校の自慢は何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> やりたくないなあ。 私ばかり指導を受けていやだなあ。 そんなに長く続いているのか。 地域の人をがっかりさせてはいけない。 もっと頑張らないといけないなあ。 次は私たちがこん棒体操を伝えていく番なんだ。頑張ろう。 6年生として恥ずかしくない演技をしないといけない。 縦割り活動 一人一鉢栽培 元気のよい挨拶 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ だんだんとやる気をなくしている「みどり」の気持ちをおさえる。 ○ 改めて、こん棒体操が伝統として受け継がれていることを知った時の気持ちに共感させる。 ○ ワークシートに書かせたり隣同士で考えを話し合わせたりすることにより、「みどり」の気持ちに共感させる。 ○ 伝統だけに限らず、自慢とすることについて、多様な意見を引き出す。また、理由を発表させることで、よさを実感させる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 学校の伝統をつくっていくのは私たちなんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校の取組についての写真やビデオ・作文等を取り上げるのもよい。 ○ 「心のノート」(P.102～103)「校風をつくるのはわたしたち」を活用するのもよい。

6 授業の概要

(1) 主題について

高学年では、学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力して自分たちの学校をよりよくしようとする心を育てることが必要である。さらに、よりすばらしい校風をつくるために積極的に取り組む態度を養い、具体的に実践できるようにすることが大切である。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

愛校心を育てる時間とするため、学校行事や児童会行事等と時期を合わせて行うのもよい。資料の内容は、運動会の話であるため、運動会前後に行うのもよい。

イ 中心場面

始めはこん棒体操をするのがいやだった主人公が、先生や母親の話を聞いて心を動かされる。さらに、1年生がまねをして遊んでいるのを見て、最高学年としての自覚やこれからも伝統を引き継いでいくという役割を感じ、こん棒を持つ手に力が入る。そのときの主人公の気持ちについてワークシート等を使ってじっくりと考えさせることで、よりよい校風を作り上げようとする気持ちをもたせたい。

ウ こん棒体操

三坂地小学校の伝統となっている体操である。昭和26年デンマークの体操を学び、日本舞踊の動きも参考にして作られた。昭和27年に初めて運動会でこん棒体操を発表し、現在まで受け継がれている。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

こん棒体操のみならず、こん棒そのものについても知らない児童がいると思われるため、写真や動画などを活用して、児童により分かるように提示する等、導入を工夫したい。

イ 書く活動の工夫

中心発問で、ワークシートに記入させ、児童に考えさせる時間を確保したい。また、机間指導する中で、児童の考えを類型化しておき、意見交流の際に生かすようにしたい。

また、「心のノート」(P.102～103)に自分の考えやクラスで話し合ったことを書かせる等、「心のノート」の活用も図りたい。

(4) 参考資料

三坂地小学校のホームページを開くと動画が見られるようになっている。

(三坂地小学校ホームページURL <http://www.kure-city.jp/~miss>)

(三坂地小学校 木村智子)